



SHINRAN
750th

御遠忌通信

「いただこう あわせる 掌のぬくもりを」

第10号



あかり とも

発行日 2019年2月1日
責任者 宮尾 隆造
編集 御遠忌実行委員会
連絡先 長浜教務所

〒526-0059
長浜市元浜町32番4号

TEL 0749-62-0737
FAX 0749-62-0754

参議会議員 富永 八郎

お陰様です

明けましておめでとございます。平素は温かいご指導を賜りありがとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

両別院と教区の御遠忌もいよいよ目前に迫ってまいりました。念仏を申すことの意味をしっかりと腹に納めてお迎えしたいものだと思っております。念仏は呪文ではないのだから、ただ単に念仏を称えればそれで十分というものではありません。この度ノーベル賞(医学生理学)を受賞された本庶佑(ほんじょ・たすく)教授は記者会見で「教科書を信用するな」と話され、書かれていることを単に覚えたりオウム返しに唱えたりするのではなく、しっかりと自分のものとすることの重要性を述べられました。これは科学する上で、さらに進めて言えば、仏教に於いてさえも大事な示唆を含む考え方であると思いました。

「仏教は分からないものです」とか「分かんないと思っはなりません」という考え方もあるようです。たしかに私たち自身についてさえも、どうして生まれてきたのか、いつまで生きられるのか、一寸先は闇だとも言います。世の中は常に変化しております。無常です。どうせ分かるはずもないのだから、ただひたすら念仏を申せばよいと説いてみても多くの人はついてはまいりません。人生は常に変化し不確定だからこそ、人生に指針となるものを、心の支えになるものを求めるのでしよう。

二〇一六年五月の長浜教区同朋大会で、第20組の専明寺前住職の瀬邊勸先生は「南無阿弥陀仏」とはどういう意味なのかについてお

話されました。これはインドの言葉サンスクリット語と同系統の、古代インドの俗語の一つであるパーリ語:Pāliを漢字に写し替えただけで、意味を表すものではありません。ですから、当時の中国の人にだって分かるはずがありません。宗祖親鸞聖人はこの六字に写し替えられたインドの言葉の意味を「正信偈」の冒頭で、無量寿如来に帰命し、不可思議光に南無しようと言っておられます。その意味を納得できるよう分かり易く説明して頂きました。説得力がありました。つまりは、「お念仏のこころを生きる、お念仏のこころをこころとして生きる、これが念仏を申すことの大きな意味合いだろう」と。

現代に生きる私たちは分からないものを鵜呑みにして信じ込まないよう教育されてきました。十分理解した上で行動するようにと教え込まれてきています。先日テレビ記者に「ナムアマダブツ」ってどういうことですかと突然聞かれた大谷派の住職さんは即座に「お陰さまです」あるいは「有り難いことです」ということであると瀬邊先生と同じことをおっしゃられました。念仏申す生活の大切さ、感謝の行動表現の重要性を再確認できるような御遠忌をお迎えしたいものだと願っております。

実行委員の各部各班の皆様が実施計画の詳細にわたってご尽力頂いていることにお礼を申し上げます。この機会に、私達は思いを新たにして、念仏を申す気持ちの一層の高揚を図りたいものです。



親鸞さんとの出会い

参議会議員 堤 行洋

「今、いのちがあなたを生きている」
「いただく あわせる 掌のぬくもりを」

この言葉は御遠忌のテーマとスローガンであり、テーマは真宗本廟の扉に掲げられております。参議会で上山させて頂いている時は、旅館から宗務所への往復時に毎日この言葉を目にして、自然と口ずさんでいる自分がいいます。

二〇一九年五月に長浜教区両別院の御遠忌法要をお迎えする事になりました。私にとっては初めて経験する御遠忌です。御遠忌実行委員会の一員として参加させて頂き、非常にやりがいと責任を感じております。

宗門を取り巻く現況は、人口減少や過疎・過密による人口流動、宗教離れの風潮など幾多の問題点が挙げられておりますが、住職や門徒の問題点の把握・認識によりこの状況は打開できるものと私は確信しております。今迄の既成概念をリセットし発想転換で物事を考え、一石を投じる勇氣も必要ではないかと思ひます。

この度の御遠忌法要で「親鸞さんとの出会い」を大事にし、この出会いを契機に住職・門徒も課題を考え、より良い方向に進めていかなければならないと思っております。

五村別院、長浜別院での皆様のお参りをお待ち致しております。



ひゃつぱだい

聴いてください

「おはなぎつね」筆の音と語りと映像

彼岸会 3月18日(月) 11時45分開始
会場 大通寺 大広間

今回、親鸞聖人七百五十回御遠忌をご縁に、大通寺様に伝わる長浜の民話「おはなぎつね」を筆と語り、映像でお届けします。この物語は、いたずらきつねが時には大通寺の危機を人々に知らせ守ってくれらるというお話で、今も「おはなぎつね」の孫、そのまた孫が町やお寺を守っているという言い伝えにもとずいています。

プロフィール

「ひとつばたご」は、「筆」を中心に「フルート、バイオリン、ギター、篠笛、尺八等」の楽器と一緒に楽しく演奏をしているグループです。童謡、歌謡曲、クラシック、邦楽の古曲・現代曲、物語の曲など幅広いジャンルの曲を演奏し皆さまに喜んでもらっています。雨森芳洲庵、寺院、福祉施設、地域のお祭り、学校などで演奏活動しています。御遠忌を機会として活動の機会や内容に幅をもたせていきたいと思っています。



「御遠忌 ごきげん ワークショップ」は御遠忌の趣旨に賛同の上、様々な活動を企画し実施いただく団体を募集しました。応募団体の中から選考の上、一定の助成をするもので、助成対象となる事業は御遠忌の願い「生きる力を伝える」に則した多様な活動を行っていきます。
「御遠忌 ごきげん ワークショップ」を契機として、真宗門徒の皆さんはもとより、宗派を越えて地域の方々との交流を深めてまいりましょう。

1256年（84歳）

親鸞、『西方指南抄』を书写。

親鸞、六字・八字・十字名号（本尊）を書く。

各組からの
声

弥陀の光明に照らされて

—今、いのちがあなたを生きている—

第24組 浄教寺門徒 安居 重晴

新しい年明けとともに「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」が近づいてまいりました。まだ先のことと思っていましたが、三月まで残りわずかとなり、御遠忌委員会もまとめ段階に入られることと思います。今日までの「苦勞」感謝申し上げます。

「今、いのちがあなたを生きている」このテーマは、二〇一一年に本山で厳修された宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌のテーマであり、早くから見かけますが、それぞれの御寺にも掲げられており、日頃目にする機会も多いと思います。このテーマは、何度見ても、「妙な言葉だな」「法話を聴いてもよくわからんけど、このテーマもわからない」と思った方は多いのではないかと思います。私もその一人で、「御遠忌までには何とか理解しておかない」と考えておりました。

「いのち」はどうして生まれたのか、誰もいのちをつくることはできない。「ただだいた」とすると、ただだいた前に自分がなければ、ただだいたはできない。いのちは自分のものとする、けれども手足のように自由に思うようには動かない。このように考えていくとだんだんと難しい話になっていきます。

「いのちがあなたを生かしている」は、当たり前ですが、「いのちが自分という人間を作ってくれた、そして生きている」と考えると、次は「生きている意味は何だ」の考えに進めるのではないかと思います。

「生きているのではない、生かされているのだ」これは法話の中でもよく聴聞しました。動物、植物の生命を絶ち、ごちそうをいただく時だけ「いただきます」を言う身勝手な自分がそこにいるという話です。最近、若い人達の中から「生き物に感謝」という投稿がSNSなどでたくさん挙げてられています。

その中で、「『いのちに感謝する日』を設けてはどうか、人間が生かするために命を奪ってしまったものたちへの供養と、ありがたいの気持ちを含めて、感謝の意を表すことは日本人らしいと思う。』といった投稿を目にしました。また、「いただきます」の言葉に変わり、「ごめんな・・・絶対栄養にするからな・・・生

き物に感謝！」「このようなメッセージを目にすると、これからの世情を危惧する反面、安堵感を覚えます。

「生かされている」このことは、動植物を食し空腹を満たすだけでなく、医学や科学でも、私たちがその恩恵にあずかっています。

私は十五年ほど前に、心臓の手術を受けました。自分なりにひよっとしたら生きかえることができないかもしれないという覚悟をしておりました。「目が覚めたら生きていますよ」とは、友人の励ましの言葉でした。手術は無事成功し、あらゆる人に、仏様に、食べるものに感謝の気持ちでいっぱいでした。このことは、医学や科学が進んだからと考えることはできません。今は、ただ自分は人の手によって生かされている。「いのち」が多くの人と繋がって、その中に自分があるのだと思っています。手術後も次々と変化する症状に対して多くの治療を受けて退院しましたが、一か月の病院生活で学んだことは貴重なものとして忘れることはないと思います。

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」は、我々が、いのちについて考えさせられるものです。いろいろ考えてもりたいという意味があるのかも知れません。したがって、様々な受け止め方があるかと思えます。今日までの長い歴史の中で、親鸞聖人が我々に伝えていただいていることを、いのちを賭して守り育ててこられた先人の心。そして私たちが次の世代へ伝えてゆかねばならないこと。これらのことについて、考える機会になればと思います。

古希を前についでに……

第24組 猶存寺門徒 水上 喜久男



今般「御遠忌通信」への投稿の機会を得たことは、大変ありがたい事と感謝しております。最近少しだけ仏法を感じている気がいたしますので、自分のことで恐縮ですが投稿させて頂きます。

浄土真宗の根源は信心だと勝手に解しておりますが、様々な機会に仏法のご法話を聴かせて頂きますと、親鸞聖人・七高僧のお話からお釈迦様・阿弥陀様の教えで結ばれる事が多いように感じます。

(裏面へ続く)

1256年（84歳）

親鸞、『往相回向還相回向文類』を著わす。

1257年（85歳）

親鸞、『西方指南抄』を书写・校合。

親鸞、『唯信抄文意』を転写して顕智・信証に与える。

1257年（85歳）

親鸞、夢に「弥陀の本願信ずべし」の文を感得。
覚信、『西方指南抄』を書写。

御遠忌実行委員会からのお知らせ

しかし、お釈迦様・阿弥陀様から語れば大乘・小乗も自力・他力の隔てもないと思います。さらに親鸞聖人の教えからも多くの異なった解釈（宗派）が生まれたこと等々にも疑問を感じます。

この事は、私も含めた戦後育ちの多くの方々が、唯物論的・合理主義的な考え方を学び、頭脳が納得しない事柄はなかなか自分に受け入れにくいのではないかと思います。私自身も古希近くまで歳を重ねて参りましたが、先達や祖父のように信心一筋の生活に至ることは勿論、生活の中での仏法の入り口にも未だに立てて居ないのが私の実態です。

しかし、近年、手次のお寺・第24組・長浜教区で仏縁の機会を頂くなか、大変恥ずかし事ですがようやく阿弥陀様の前で「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」と声に出して称える事が出来る様になってきました。この歳になっての一言、やっと声にさせた一言、僅か半歩の前進ですが、私にとつては仏縁と出会わせて頂く大きな一歩にしたいと願っております。また、前住職様に付けて頂いた法名が釈信喜です。信心に気がない私を見越して付けて頂いた法名に恥じないよう、信心する喜びを体感出来るように努めたいと思います。

二〇一九年、いよいよ長浜教区では宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が勤まりますので、このご縁を大切にし、子ども・孫共々に宗祖親鸞聖人との仏縁に一歩でも二歩でも近づきたいと願っております。

ごきげんワークショップ開催案内

○おつとめおけいご会(第6回)

日時 二月四日(月) 十九時

会場 長浜別院大通寺 大谷会館

内容 「文類偈 真四句目下」
もんるいげ しんしゅくめさげ

講師 日野 直 氏(小松教区西照寺衆徒)

○親鸞さまと今福寺の時代(第5回)

日時 三月十七日(日) 十三時半

会場 稱揚寺(米原市番場)

講演 「十五世紀～十六世紀における

番場の歴史的景観と今福寺跡」

講師 丸山 竜平 氏(元名古屋女子大学教授)

横超楽園

みなさまのご支援により、去る十一月二十五日「横超楽園(ランド)」を開園いたしました。教区内外(福井教区・京都教区遠くは神奈川県)から一般市民を含めて幅広い立場の方々にご参加いただき、刺激的な交流の場となりました。特に、対話用紙を利用してご意見や感想を率直に記入していただき、披露する進行は、「同じ話を聞いてこんなにも多様な受け止めがあるとは…」と好評。これまでの研修会・学習会とは異質な空気を味わうことができたと思います。

第二衆会の申込締切は二月二十四日です。心が固まる出来事が繰り返される今日、心がほどける楽園(ランド)があなたをお待ちしております。

- 一回のみの参加もOK
- 参加費は五〇〇円／一回
- 申込・問い合わせ

事務局携帯電話 〇九〇(8263)3864(岡山)

○横超楽園(第二衆会)

日時 三月二十四日(日) 十三時半

会場 西徳寺(敦賀市足田)

講演 「日本の近代化と国家(人々)の行方」

講師 長田 浩昭 氏(京都教区法傳寺住職)

